

特定非営利活動法人 フリースペースたまりば（認定 NPO 法人）

2024 年度事業報告書

（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）

1. 事業の成果

本年度は、昨年度に引き続き法人全体の組織改善・事務局機能の強化に取り組む中で、各拠点の事業がより充実したものになることを重点テーマとし、事務局一体となって居場所づくりに取り組める体制を構築していった。各事業責任者の事業運営や、人材育成・研修の企画・運営等を事務局がサポートし、これまで課題となってきたことに各現場少しずつ取り組むことができた。さらに、事務局体制の強化の中では課題となっていた労務・会計体制の整備、倫理綱領づくりへの職員一丸となった取り組みや個人情報保護規程の整備などコンプライアンス面の強化、ファンドレイズの強化にむけて基礎となる寄付者とのコミュニケーションの体制を確立することができた。

一方、健全な法人運営・事業運営に向けた取り組みをする中で、財政赤字が顕在化した年でもあった。財政的課題は多岐に渡っており、さまざまな解決策を多角的に実施していく必要があった。

夢パークでは今年度も視察や見学などが非常に多く、取材や実習なども加えると 300 件を超えて対応した。その際の資料準備などの事務量の軽減を目指し、夢パーク資料集を作成し販売した。これらを通して、夢パークの理念や子どもの権利についてより一層の理解促進につなげた。また、子どもの活動では、こどもゆめ横丁への YTK（横丁たのしくしようかい）の積極的な活動から、一店舗の出店人数の変更や子どもののみが横丁内に入れる「こども時間」の創出など新たな取り組みを子どもと共に進めた。横丁後も横丁税で夢パライン（手押し電車）を半年に渡って作成した。

一方、夢パークはオープン 20 年を超え、経年劣化が目立ち始めているところを市と協議し、サイクリングロードの全面（一周 400m）改修や空調の入れ替えがあった。地域への騒音対策の防音カーテンの設置や 8 t トラック 24 台分の土をもらい土山の造成も行なわれた。Instagram へ力も入れフォロワー数も 7,000 人を超えた。

フリースペースえんの合宿では近年、参加者が増えてきている。特に、冬合宿ではバスや宿の定員により、参加者の制限をしたうえで宿やスキー場をホワイトワールド尾瀬岩鞍へ変更をした。また、フリースペースえんの保護者のニーズからバウンダリー（境界線）講座を企画した。保護者自身が家族の中でお互いに尊重しあい、心地よく過ごしていくための必要な考え方を手に入れることが大事だと思われる。また、神奈川県教育委員会から高校教員（体育科）を一年間の NPO 派遣研修としてフリースペースえん（夢パーク）での活動を中心に受け入れた。

川崎若者就労・生活自立支援センター「ブリュッケ」は、事業開始から 11 年が経過し、若者たちが主体となって居場所での活動を企画する流れが生まれている。一昨年あたりから活発になってきた地域のイベントへの参加は、これまで以上に若者が中心となり取り組んだ。また今年度、法人が受託した神奈川県福祉こどもみらい局によるこども若者を対象とした意見聴取の機会においては、自分たちにとって居場所とは何か、生活や将来への不安についてなど積極的に自らの思いを伝えようとする姿が見られた。就労自立支援では、法人内での若者の就労体験の機会を増やすため、法人事務局及びコミュニティスペースえんくるを生活困窮者自立支援制度における認定就労訓練事業所の申請を行い、川崎市より認定された。若者たちの有償ボランティア参加が引き続き活発な中、地域や民間企業など各機関と連携しながら、多様な就労体験の機会に多くの若者が挑戦した。

コミュニティスペースえんくるは、より多くの利用者が訪れるようになり、寄せられる困りごとでも多種多様となっている。今年度も引き続きパントリー事業を軸に、さまざまな助成事業を活用し、えんくるの食堂、こども☆きっさ、時短・節約料理教室、チャレンジ・ラボ、こうした事業から始まる相談支援事業など多様な場と機会、サポートを提供してきた。また、川崎市社会福祉協議会からの助成をうけ、市内での理解者を増やすためのネットワーク会議を 4 回開催した。昨年度から取り組んでいる神奈川県社会福祉協議会と協働モデル事業「福祉的支援を必要とする子どもとその家族を食を通して地域全体で支えるしくみづくり」は、2 年目を迎え、神奈川県内外で食支援に取り組

む団体、先進地域の行政・社協・中間支援団体を訪れ、インタビュー調査を行い、調査レポートをまとめた。

2. 事業内容

居場所（活動拠点）・事業

A) 川崎市子ども夢パーク	] 指定管理施設	指定管理料	62,488,000 円
B) フリースペースえん		(分担金)	
C) 川崎若者就労・生活自立支援センター「ブリュッケ」 (川崎市生活保護受給世帯等若者就労自立支援事業)		委託費:	55,500,000 円
D) 「よつばの会」(川崎市学習支援居場所づくり事業)		委託費:	7,594,972 円
E) 「ふれあい心の友」 (川崎市ひきこもり等児童福祉対策事業)		委託費:	6,106,120 円
F) コミュニティスペースえんくる・フードパントリーたまりば			
1. 「社会福祉振興助成事業」(WAM 助成)		助成金:	7,000,000 円
2. こども家庭庁補助事業「ひとり親家庭等の子どもの食事等提供事業」(フードバンク TAMA を通じて助成)		助成金:	2,000,000 円
3. 川崎市地域子ども・子育て活動支援助成事業		助成金:	800,000 円
4. 川崎市社会福祉協議会福祉基金助成事業		助成金:	240,392 円
5. 地域福祉活動支援事業協働モデル事業 (神奈川県社会福祉協議会)		助成金:	1,280,000 円
6. 大和証券ジーンズデイチャリティ募金 (神奈川県共同募金会)		寄付金:	204,639 円
G) その他			
1. 令和3年度 NHK 歳末たすけあい配分金(神奈川県共同募金会)		寄付金:	870,000 円
2. かながわ生活困窮者自立支援ネットワーク [川崎事務局]		寄付金:	497,943 円
3. 子どもの居場所づくり推進委託事業(神奈川県)		委託費:	360,000 円
4. 学校との連携強化推進事業(神奈川県)		委託費:	403,200 円
5. 不登校等の児童・生徒支援に係るメタバース運営等業務委託		委託費:	289,666 円
6. 神奈川新聞厚生文化事業団助成事業		助成金:	50,000 円
7. 子ども・若者の意見聴取委託事業		委託費:	280,720 円
8. 生活困窮等若者単立ち応援事業		補助金:	442,596 円
9. その他活動・運営に関する助成金・補助金等(4種合計)		助成金	370,000 円
		/補助金:	

(1) 誰もが安心して過ごし学べる居場所の開設と運営

< A) 川崎市子ども夢パークの管理・運営 >

- ・(公財) 川崎市生涯学習財団と「川崎市子ども夢パーク共同運営事業体」を結成し、指定管理者として川崎市子ども夢パーク(以下 夢パーク)の管理・運営業務を行ない、夢パーク所長を友兼大輔、副所長を千葉志門が引き続き務めた。生涯学習財団からの副所長とあわせ、計2名体制でより安全な施設管理、運営体制を実現した。
- ・夢パークは、「川崎市子どもの権利に関する条例」の具現化を図ることを目的として川崎市によって設置され、子どもの活動拠点、プレーパーク、不登校支援、乳幼児・子育て支援、多文化共生、世代間交流等、多機能が備わった子どもたちの総合的な居場所である。これらの実現を目指して、以下の3つを事業の柱として、管理・運営を行なった。

<夢パークの特徴>

- 「プレーパーク」…土や水、火や木材などの自然の素材や道具や工具を使い、子どもたちの遊び心によって自由につくりかえられる遊び場
- 「フリースペースえん」…主に学校の中に居場所を見出せない子どもや若者たちが、学校外で多様に育ち・学ぶ場
- 「子どもの活動拠点」…子どもが自由に安心して集い、自主的及び自発的に活動する拠点

<子どもが自由な発想で、遊び、学び、つくり続ける居場所>

夢パークでは「子どもが自由な発想で、遊び、学び、つくり続ける居場所」であることを目指して整備してきた。子どものいのちを真ん中におき、一人ひとりの自己肯定感を育む環境づくりに力を入れている。子どもが安心して、ありのままの自分でいられることを尊重し、自分の中から湧き出る「やってみたい」を大切にしたいと考えている。そして、できるだけ禁止事項をつくらず、子どもの発想で自由に遊び、自分の力の限界に挑戦し、それができたときの達成感を通して自信を育むとともに、安心して失敗できる環境づくりに力を注いだ。ここでは子どもの「参加」を大切に、運営や遊具の製作・設置・撤去、イベントの開催などに子どもの意見を聴き、子どもたちが自主的・自発的に活動する拠点づくりをめざした。

- 使いながらつくり続けていく場
- 子どもの自由な遊び、活動がどんどんふくらむ場
- 子どもが自由に安心して居られる場
- 学校以外での育ち、学ぶ場
- 川崎市子どもネットワークの拠点となる場
- 子どもたちが自分たちで動かしていく場

・開設日時（夢パーク）

2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

＊開所時間 9:00～21:00

＊休所日 施設点検日（第 3 火曜日）、臨時施設点検日、年末年始、
第 1・第 4 火曜日の 17:00～21:00

- ・場所：神奈川県川崎市高津区下作延 5-30-1 川崎市子ども夢パーク
- ・総利用者数：69,654 人

< B) 不登校児童・生徒の居場所「フリースペースえん」の運営>

川崎市子ども夢パーク内において、学校や家庭・地域の中に居場所を見出せない子どもや若者が安心して過ごせる居場所づくりを行なった。昨年度に引き続き、今年度も小学生の登録者が増えている。

- 自分で決めるプログラム決められたカリキュラムはなく、子どもたち一人ひとりが、自分でその日をどのように過ごすかプログラムづくりを決定し一日の活動を行なった。
“この指とまれ”方式で、自主企画をたて、仲間を集めて一緒に活動した。

○ 昼食づくり

フードバンクやえんめし自主サークル「あたたかいごはんを食べる会」と連携し、「自分たちと一緒に作って食べる」を大切に、子どもや若者を中心にスタッフやボランティアがサポートしながら、毎日メニューを決め、買い物・野菜の収穫・調理・配膳・片付けなど、毎日 30～40 人分の昼食づくりを行なった。（1 食 250 円）

・開設日時（フリースペースえん）

2024年4月8日～2025年3月21日

月曜日～金曜日 10：30～18：00 祝日は休み（ただし、火曜日は10：30～14：00）

開設日：217日

＊通常活動日：198日

＊特別活動日：19日（自然野外体験、合宿、イベントなど＜別紙参照＞）

・場所：神奈川県川崎市高津区下作延 5-30-1 川崎市子ども夢パーク内

・対象者：登録制

登録者数（2025年3月31日現在）

	男	女	計
小学生	35	18	53
中学生	24	13	37
高校生年齢	15	10	25
19才以上	21	15	36
計	95	56	151

＜C）川崎若者就労・生活自立支援センター「ブリュッケ」（以下ブリュッケ）の開設・運営＞

川崎市内の生活保護世帯、及び生活困窮世帯の若者たち（15～39歳）に対して、居場所づくりと就労自立支援を行った。就労自立支援は、「えんくる協力隊」や「はたらくを探そうプロジェクト」などをはじめとした有償ボランティア参加が引き続き活発である。いずれも居場所から就労を働き掛けることはなく、あくまで若者たちが自発的にボランティア体験を希望する流れは変わらない。今年度は認定就労訓練事業の申請を行い、川崎市より事業実施が許可された。就労体験の場も中原区役所や地域の事業所などこれまでの法人内から外部の機関へと一層の広がりを見せている。併せて、地域のお祭りやフリーマーケット、シェア本棚への参加、近隣幼稚園や放課後デイサービス、母子支援施設でのボランティア活動など、若者たちが地域とつながる動きも継続して活発である。居場所につながり、仲間とつながり、地域とつながる流れの中で若者たちがそれぞれの自立の形を模索し始め、自分たちにとって居場所とは何かを語る機会も増えていた。月・水・金の通常の開所日には若者主体の空気が生まれている一方、新たにつながる層に向けては、火・木の予約制居場所、少人数でのミニ居場所、「女子会」や「学ぶぞ！の会」など、多様な層がつながりやすい居場所づくりに若者たちとともに取り組んだ。

・開設日時

2024年4月1日～2025年3月31日

月曜日～金曜日 9：30～18：00

開所居場所：月・水・金 10：30～17：00

予約制居場所・ミニ居場所：火・木 10：30～17：00

【開設時間例】

月・水・金：「みんな de ワーク」のんびりヨガ、各種グループワーク

「ひとり de ワーク」PC 個ワーク、珈琲工房昼食づくり、フリータイム、

ミーティング、共食タイム（「おいしい・うれしい・たのしい」をみんなで！）

火・木：予約制居場所、学ぶぞ！の会（学習支援の会）、女子会、福祉事務所・自宅へのアウトリーチ（訪問居場所）・ご家族相談など、CW とのケース打合せ、行政関係機関とのケースカンファレンス、連携・調整会議

・場所：神奈川県川崎市中原区内

・対象者：登録制

●年間登録者数 79 名（2025. 3. 31 現在）

	15～19 歳	20～24 歳	25～29 歳	30～34 歳	35～39 歳	合 計
男性	7	12	12	5	5	41
女性	9	12	11	5	1	39
合計	16	24	23	10	6	79

●支援類型

支援類型別相談支援者 内訳（重複あり）	人数
相談支援（本人）	24
相談支援（家族）	1
居場所支援（アウトリーチ）	5
居場所支援（予約制）	20
居場所支援（通常）	54
就労支援	25
定着支援	4
学習支援	5
生活支援	11
関係機関連携	27

●支援件数（延べ件数）

新規相談	34 件
同行支援	67 件
個別相談	313 件
支援者会議・カンファレンス出席	17 件

< D)「よつばの会」(川崎市学習支援居場所づくり事業)の開催>

高津区を中心とした川崎市内の生活保護世帯、及び一人親世帯の小学生(小学校3年生～6年生対象)・中学生・高校生に対して、学習支援・居場所づくりを行なった。個別の理解度や苦手分野に合わせた個別学習を中心に行ない、学習以外にもサポーターや来ているメンバー同士が交流し関係性を築くことでその後の学習がスムーズにつながるよう心掛けた。高校入試直前には、受験生の希望者に対し、集中講座・無料の模擬試験を実施した。高校進学を希望したメンバーは全員高校進学を果たした。また、高校進学後も、いつでも相談や自習に来られるように受け入れ態勢を整えた。また、大学進学等進路についてなど、様々な不安を抱えたメンバーや親の相談が多数寄せられ、丁寧に対応した。

・開設日時

2024年4月1日～2025年3月31日 ＊週2日(月曜日・木曜日)

小学生の部 16:30～17:30

中高生の部 18:30～20:30 祝日は休み

・開設場所:川崎市子ども夢パーク内「ミーティングルーム、多目的ホール」

・対象者:登録制

・開催回数:90回(高校入試前の集中講座を含む)

登録者(2025.3.31現在)

	男		女		計
	生活保護	一人親	生活保護	一人親	
小3	0	0	0	1	1
小4	1	0	0	0	1
小5	0	0	0	0	0
小6	1	1	0	1	3
中1	0	1	0	0	1
中2	1	0	0	0	1
中3	0	3	3	0	6
計	3	5	3	2	13

< E)「ふれあい心の友」(川崎市ひきこもり等児童福祉対策事業)の実施>

川崎市内の児童相談所と関わりのある不登校・ひきこもり傾向にある児童・生徒が、主に大学生が登録している「ふれあい心の友」と児童相談所内で交流し、自主性や社会性の伸長を図ることを目的としている。この事業のうち、フリースペースたまりばは、「ふれあい心の友」登録者と対象となる児童・生徒が一对一で学習をしたり話をしたりする個別活動支援のうち、「ふれあい心の友」の募集・研修・派遣を担当した。また、児童相談所に通ってくる複数の児童・生徒と一緒にゲームをしたり料理をしたりする集団活動支援のうち、活動内容の企画立案・準備・運営を担当した。

・実施日時

2024年4月1日～2025年3月31日

・場所

川崎市南部児童相談所、川崎市中部児童相談所、川崎市北部児童相談所、幸区役所

・対象者

川崎市児童相談所と関わりのある18歳未満の児童・生徒

・実施回数

個別活動支援	185 回
集団活動支援	30 回
研修	18 回

2024 年度利用者数（延べ人数）

	南部児童相談所 /幸区役所	中部児童相談所	北部児童相談所	計
個別活動支援	36	119	30	185
集団活動支援	41	72	43	156

＜ F）コミュニティスペースえんくる・たまりばフードパントリーの運営＞

2024 年、コミュニティスペースえんくるは、「食」でつながる地域の居場所、地域づくり・まちづくりの拠点として、各種事業を実施しながら地域のネットワークを作り、活動してきた。これまでも事業実施にあたっては、フリースペースえんやブリュッケの若者が参加し、就労をはじめさまざまな体験の場ともなってきたが、今年度からは「若者と共につくる」ことを大きなテーマとして全体の運営を考えてきた。実施した事業は下記のとおりである。

実施事業		活用した助成・補助等
地域づくり/まちづくりの拠点としての コミュニティスペース運営		福祉医療機構 WAM 助成事業
たまりばフードパントリー	日常の運営	福祉医療機構 WAM 助成事業
	ひとり親世帯 の食料支援	こども家庭庁「ひとり親家庭等の子どもの食事等提供事業」（フードバンク TAMA を通じた補助事業）
えんくる食堂（多世代型地域食堂）		川崎市地域子ども・子育て活動支援助成事業
こども☆きっさ		川崎市地域子ども・子育て活動支援助成事業
相談支援事業		福祉医療機構 WAM 助成事業
時短・節約料理教室		川崎市地域子ども・子育て活動支援助成事業
チャレンジ・ラボ		川崎市地域子ども・子育て活動支援助成事業
えんくる CAFÉ		自主事業
支え合いの地域づくり		福祉医療機構 WAM 助成事業
調査事業 「福祉的課題を抱える子どもへの食支援の可能性」		神奈川県社会福祉協議会 地域福祉活動支援事業協働モデル事業

・実施日時

2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日 年間開所日 192 日

週 4 日（月・水・金・土曜日）10：30～18：00 原則祝日、年末年始休み

・場所：川崎市多摩区宿河原 6-26-24

・各事業実施概要と年間実績 <詳細は別紙1 参照>

① たまりばフードパントリー

福祉事務所（生活保護課）や社会福祉協議会、地域のフードドライブを実施する団体など、さまざまな団体・機関からの紹介でパントリー利用者が増加、ひとり親世帯の子どもたちに加え、中高年単身者の利用も増加している。食材配布に当たっては、フードバンクや連携団体、市民からの寄贈・寄付に加え、昨年度に引き続きひとり親世帯向けには、全国食支援活動協力会を通じてこども家庭庁「ひとり親家庭等の子どもの食事等提供事業」より食材購入の補助を受けた。

○実施概要 えんくる開所中に自由に来所してもらい、随時対応。

○年間実績

- ・利用者数（延べ人数） 1,993 人
- ・定期利用登録者（実人数）67 名（今年度新規登録 20 名）
- ・食料配布：配布数個、配布量 5,480kg

② えんくる食堂

第2土曜日はカレーランチとして予約不要、イートインのみ、第3・第4土曜日夜のえんくる食堂は毎回限定 50 食の予約制としているが、申し込み開始直後に予約枠が埋まる状況で、2回の夕食の食堂はどちらか1日の選択してもらうなど、できるだけ多くの家庭が利用できるよう工夫している。

○実施概要

- ・開催日 月 3 回 第2土曜日 12:00～14:00
（カレーランチ）第3・第4土曜日 17:00～ 18:30～
- ・料金：子ども 無料、大人 100 円

○年間実績

- ・開催回数 36 回
- ・利用者数（延べ人数） 子ども 828 人、大人 690 人（合計 1,518 人）

③ こども☆きっさ

子どもはジュース一杯、お菓子一個無料で立ち寄れる放課後の居場所である。近隣の小学生を中心に、口コミで利用者が広がっている。未就学児を連れた親も利用している。

○実施概要

- ・開催日：月・水・金 14:30-17:30（年間 143 回開催）

○年間実績

- ・年間利用者（延べ人数）：1,279 人

④ 相談事業

フードパントリーやえんくる食堂などでの日常的なやりとりを通じて SOS をキャッチし、相談援助につなげている。立ち話等食支援利用時や公式 LINE でサポートを行う日常相談、個別相談・訪問・動向などを行う専門相談、月に 1 回広く広報して呼びかける相談カフェの 3 つの形で相談を実施している。

○実施概要

- ・日常相談：えんくる開所時、公式 LINE での連絡等に応じて随時対応。

- ・専門相談：日常相談から見えた相談に応じて随時対応。
- ・相談カフェ：月に1回平日昼の時間帯（11:00-13:00）。個別相談は一人1時間、グループ相談はひと枠2時間。

○年間実績

- ・日常相談：年間開所日を通じて対象者43名、390件
- ・専門相談：個別相談 対象者26名、延べ件数23件
相談同行・訪問・個別支援会議 対象5名、延べ7件
- ・相談カフェ：個別相談を年間8回、延べ24人。

⑤ 時短・節約料理教室

ひとり親世帯の親子を対象に、簡単で、安価に作れる料理を学ぶ料理教室。子どもだけでも参加をしている。実施にあたっては、クックパッド（株）コーポレートブランディング部の方々に講師としてご協力いただいている。

○実施概要

- ・開催日：土曜日の午後 隔月開催

○年間実績

- ・開催回数 6回
- ・延べ参加者数 子ども28人 大人21人 合計49人

⑥ チャレンジ・ラボ

子ども若者、その家族が多様な生き方を知る機会として実施した。多様な講師から技術だけでなく人生の歩みを聴く機会となった。

○実施概要

- ・対象者：若者やその家族、子ども

○年間実績

- ・開催回数5回
- ・参加者数（延べ人数）：35人

⑦ 地域ネットワーク会議

えんくるの活動を通じて出会った困難を抱える人たちと、地域でどう支え合い暮らしていけるのか、地域のみなさんと考えていくためのネットワーク会議を開催した。

○実施概要

- ・対象者：地域の住民すべて

○年間実績

- ・実施回数 4回
- ・参加者数 57名

⑧ 若者参画による支え合いの地域づくり

えんくるの目指す「食」でつながる地域づくりに、困難を抱えてきた若者が参画することによりコミュニティスペースがより孤立状態にある困窮者がつながりやすい場となる

1) えんくる CAFÉ

誰でも立ち寄れるカフェを運営。学校に行っていない高校生や、将来にむけてさまざまな取り組みをする若者が利用。

- ・開設：週3日（月・水・金・）10:30~17:30 年間143日開催
- ・利用方法：フリードリンク制 2時間2杯まで 高校生まで300円 大人400円
- ・利用者数：1日あたり平均3.2名

2) 多様な人が寄贈者・利用者となる無料のフリーマーケットの開催

年間3回開催、延べ120名参加。運営に若者が参加する。

3) えんくる Night

えんくるに関わっている若者を中心にした集い。2 回開催し延べ 63 名が参加。

⑨ 調査事業「福祉的課題を抱える子どもへの食支援の可能性」

えんくるの行う事業を今後展開・継続していく可能性の模索のため、神奈川県社会福祉協議会と協働で調査事業を行った（3 年間の継続事業の 2 年度目）。本年は、神奈川県内外で食支援に取り組む団体、先進地域の行政・社協・中間支援団体を訪れ、インタビュー調査を行い、調査レポートをまとめた。調査を進めるに当たっては、調査検討委員会を設置し、調査の設計、データの解釈、考察などを行った。

(2) 不登校・引きこもりなどで悩む本人や家族等の相談・援助活動

① 来所相談

- ・内容：不登校、ひきこもり、非行、いじめ、生活上の問題等で悩む本人や家族等の電話相談、事前予約による来所相談を行なった。
- ・相談受付時間：
（えん）原則 月曜日～金曜日 10：30～18：00（祝日は休み）
（ブリュッケ）原則 月曜日～金曜日 10：30～17：00（祝日は休み）
- ・相談場所：フリースペースえん
- ・結果：えんで新規面談数は 91 件。（説明会、全 6 回の参加者は 116 名）
うち、体験したのが 56 名。うち、登録したのが 12 名。

② 派遣・アウトリーチ相談

- ・内容：「ブリュッケ」では、福祉事務所までなら来所できる若者に対し、福祉事務所内等でアウトリーチ相談を行なった。その他、個人宅への訪問や福祉事務所への同行支援なども行なった。
- ・相談時間：福祉事務所と調整
- ・相談場所：福祉事務所（登録制）、他
- ・結果：ブリュッケで対象者 18 名（重複含む）に対して延べ 35 回実施。

③ 本人や保護者の相談

○保護者とスタッフの語り合う会

- ・内容：保護者との関わりを大事にするために、また保護者同士がつながってお互いに話ができる様に、予定確認の他、その時々での保護者の困りごとや子どもの様子などを話しあう保護者会を開催した。
予定の確認の部分はハイブリッドで開催した。
- ・日時：毎偶数月
- ・場所：フリースペースえん・夢パーク内多目的ホール
- ・対象者：フリースペースえんに登録している子どもの保護者
- ・結果：全 6 回で合計 161 名が参加。

回	日	参加人数（名）
第 1 回	2024 年 4 月 9 日（火）	24
第 2 回	2024 年 6 月 11 日（火）	31
第 3 回	2024 年 8 月 6 日（火）	23
第 4 回	2024 年 10 月 8 日（火）	31
第 5 回	2024 年 12 月 8 日（火）	33
第 6 回	2025 年 2 月 4 日（火）	19
合計		161

○親の会「たまりば」

- ・内容：今年度より、主としてえんの説明会申し込みに入ることができなかった不登校・ひきこもり傾向の子どもや若者をもつ保護者を対象にそれぞれの抱える悩みを語り合い、「不登校のとらえ方」「子どもの受けとめ方」などを手に入れる会を開催した。
- ・日時：隔月（土曜・午前）（原則）
- ・場所：ブリュッケ
- ・対象者：不登校・ひきこもり傾向の子どもや若者をもつ保護者

○不登校グループ別相談会

- ・内容：不登校・障害など同じ悩みを抱える保護者同士が出会い、悩みを分かち合い共感しあうことで孤立をさけ、お互いを支え合えるような繋がりを生みだすことを目指し、相談担当スタッフも参加のもと、隔月でグループ相談会を開催した。
- ・日時：毎奇数月（原則）
- ・場所：夢パーク内多目的ホール
- ・対象者：不登校・ひきこもり傾向の子どもや若者をもつ保護者
- ・結果：全6回合計で36名が参加。

回	日	参加人数（名）
第1回	2024年5月20日（月）	4
第2回	2024年7月17日（水）	3
第3回	2024年9月26日（木）	8
第4回	2024年11月28日（木）	8
第5回	2025年1月16日（木）	5
第6回	2025年3月17日（月）	8
合計		36

(3) フリースペースの利用者による自主企画・活動の支援

＜A) 川崎市子ども夢パーク＞

① プレーパーク

子どもの「やってみたい」という気持ちを大切に、遊びを制限するような禁止事項をできるかぎりつくらず、子どもが考え、自分で決めて、実行するプロセスを大事にした。自分の力の限界に挑戦することを通じ、「やったー」「できた」と達成感を手に入れると同時に、安心して失敗できる環境づくりに努めた。自由な発想で自由に遊べる環境を大切にしたい。

② 3大イベント（夢パまつり、こどもゆめ横丁、新春イベント）

今年度の夢パまつりは、例年通り海の日（7月15日）に開催し、特設遊具も設置し水とドロのお祭りとした。また、裏山にもロープ遊具を作成し夢パークを広く活用することができた。

こどもゆめ横丁では、6月から『YTK（横丁たのしくしようかい）』メンバーが話し合いを重ね、子どもたちが「やってみたい」を表現できる場となった。出店した子ども当日買い物に来た子ども楽しく過ごせるために、1店舗の人数の見直し、横丁に子どもだけが入れる「子ども時間（横丁開始から30分は子どもだけの買い物タイム）」などを行なった。今年度は、31店舗、125人の出店があり、横丁内のステージも飛び入りは何組もあり、大いに盛り上げた。開催後の横丁会議では、横丁税の使い方を話し合った結果、バドミントンのラケットの購入と夢パーク内を走る電車の作成となった。

初夢！新春イベントは、町会の方々や学生等のボランティアにもご協力いただき、もちつき、豚汁、どんど焼き、紅白団子、昔遊びなどを行った。近隣でどんど焼きができなくなっている地域もあり、より近隣との交流の機会となった。

② ライブイベント

スタジオ登録者と月に2回『サタデーナイトスタジオ（SNS）』を開催した。そこで若者たちが主体となって話し合い、OBの協力を得ながらライブイベント「KUJIROCK」を4回開催することができた。

< B) フリースペースえん >

① ミーティング

安心して過ごせる居場所を自分たちの力で整えていくために、誰もが言いたいことを言える環境づくりに力を注いだ。

- ・ミドルミーティング（毎週1回30分）

② 自然体験合宿

○八丈島キャンプ（5泊6日）

場所：八丈島底土キャンプ場

期間：2024年7月28日（日）～8月2日（金）

参加者：56名

海水浴、牧場見学、山登り、野外炊飯など一日の過ごし方を自分で決め、その日を過ごす。また、参加者ミーティングの開催、必要な共同装備の準備・運搬・片付け、テント干しなども子どもたちとともに行った。

- ・参加者ミーティング、荷物だし 7月8日（月）
- ・テントチェック 7月10日（月）
- ・テント干し、片付け 8月3日（土）

○尾瀬岩鞍スキー合宿（2泊3日）

場所：ホワイトワールド尾瀬岩鞍（群馬県）

期間：2025年1月27日（日）～1月29日（火）

参加者：45名

一日のプログラムはスキー、スノーボード、そり・雪遊びなどから自分のやりたいことを選び、その日一日の過ごし方を決めた。滑りの得意な若者やOBが、初心者にスキーやスノーボードをする上での心構えや道具の使い方（板の履き方、板をつけての歩き方、転んだときの起き上がり方等）から基本的な滑り方を教えてくれた。それにより異世代間の交流の機会ともなった。

- ・参加者ミーティング 1月6日（月）

③ たまりばフェスティバル実行委員会「プロジェクトX」

講座や自主企画など一年間を通して行なってきた活動の発表の場として、フェスティバルを開催するために、子どもたちが「プロジェクトX（フェスティバル実行委員会）」を立ち上げ、準備を行なう。そこが中心となって仲間を集め、広報、プログラム・パンフづくり、その他の企画・運営を行なう。

「たまりばフェスティバル 2024 ～やっぱりたののしい～」

日時：2025 年 3 月 8 日（土）

会場：川崎市男女共同参画センター「すくらむ 21」

内容：歌、ダンス、創作劇、楽器演奏、ビデオ上映、作品展示等

参加者：300 名

④自主企画「この指とまれ」（講座・自然観察・野外体験・イベント等）

・内容：講座や企画は子どもたちが「こんなことやりたい！」という思いをミーティング等で呼びかけし、仲間を募って実現していった。＜詳細は別紙 2 参照＞

○連続講座 9 講座

月 1 回程度、ものづくりや民族音楽（南米・アフリカ）やダンス、演劇、歌、アート、藍染めなどの表現講座、お菓子づくりやイタリアンパスタ講座などを開催した。

○単発企画 27 回

ミーティングなどで子どもたちが提案し、主体的な話し合いによって決定した自主企画や各種イベント等に参加した。

○その他の企画 10 種

⑤個別学習支援および進路相談

・内容：さまざまな発達段階にある児童・生徒に対する個別またはグループでの学習支援および進路相談を行なった。多目的ホールなどを使って、個別に学習する子どもたちが増える傾向にある。また、慶応大学ボランティアサークル「ライチウス会」との連携によってオンライン個別学習支援を行なった。

・日時：随時

・場所：フリースペースえん、川崎市子ども夢パーク内「多目的ホール」

⑥オンライン（えんらいん）の活用

えんらいん（えんからのオンライン配信）を開設し、運用することで、子どもたちが在宅でもミーティングや講座に参加できるように工夫した。

< C) ブリュッケ >

① 居場所支援

○共食タイム

2022 年度、昼食提供数は急激に増加し、2023 年度以降も緩やかな上昇傾向が続いている。

特に「共食タイム」が始まる時間帯を目がけて来所する若者が増え、年度後半には午前中からブリュッケを訪れる姿も多く見られるようになった。居場所につながる当初は昼夜逆転が多い若者たちが共食タイムを通じて、生活リズムを立て直している。また、今年度は若者たちが自主企画として夕食を皆で食べる会「ブリュッケ食堂」を開催した。

○グループワーク（開所日の居場所）

昨年度に引き続き、若者とともにブリュッケの活動について考える機会の多い 1 年となった。月 1 回の井戸端会議で翌月のプログラム内容を話し合い、若者たちの希望をもとに活動内容を決めていく。特に外出プログラムでは、若者たち自身で場所や行き方、予算などを調べて企画する場面が開所日の居場所では日常の風景となりつつある。併せて、自分たちにとって居場所とはどのような意味を持つのかなど若者同士で語り合う時間が増えた 1 年となった。

○予約制居場所

開所日以外の火曜日と木曜日を予約制居場所として開所。昨年度から始まった学習支援の会や女子会なども継続している。今年度は予約居場所の形をさらに展開させ、ミニ居場所、メゾ居場所といったバリエーションを増やしている。予約居場所を利用する若者同士の交流が見られたことから、スタッフと1対1の場を少しずつ広げ、少人数での若者たち同士の交流の機会へつなげている。

○アウトリーチ支援

居場所まで来ることが難しい若者を対象にアウトリーチ支援を継続して行っている。各自のニーズに合わせて、福祉事務所や自宅などにおいて訪問型の居場所提供を実現している。アウトリーチ支援から予約居場所へ、開所日の居場所へなど若者それぞれのペースで次のつながりへ展開している。また、多様な背景の若者たちに対して様々なケースワークが必要となる場面も増え、通院や各種手続きなどケースワークを伴うアウトリーチも増えている。

【居場所開所日数と利用者延べ人数】

	開所日（月水金）			予約制（火木）		アウトリーチ
月	開設日数	利用人数	1日平均	開設日数	利用人数	利用人数
4月	12日	184人	15.3人	9日	42人	5人
5月	12日	215人	17.9人	9日	40人	4人
6月	12日	180人	15.0人	8日	40人	2人
7月	13日	225人	17.3人	9日	38人	4人
8月	12日	184人	15.3人	9日	43人	3人
9月	11日	207人	18.8人	8日	29人	1人
10月	13日	172人	13.2人	9日	65人	2人
11月	11日	202人	18.4人	8日	30人	4人
12月	12日	179人	14.9人	8日	42人	1人
1月	11日	175人	15.9人	8日	39人	2人
2月	11日	197人	17.9人	7日	23人	4人
3月	13日	228人	17.5人	7日	42人	3人
合計	143日	2,348人	16.4人	99日	473人	35人

【アウトリーチ先】

アウトリーチ先	対象者数（重複）	実施回数（延べ）
福祉事務所	4名	4回
自宅	4名	7回
その他	10名	24回
合計	18名	35回

②就労自立支援

今年度の新規就労件数は、単発を除くと 21 件で、これは昨年度の 13 件を 50%以上、上回った。この背景のひとつは、「えんくる協力隊」などの有償ボランティア参加による継続的な効果があげられる。以前はスタッフが個別に促す流れで参加につなげていた「えんくる協力隊」だが、今では若者たちが進んで希望することが増え、順番待ちとなっている。以前は仕事の話は面談室の中で、1 対 1 で行われることが多かったが、最近では居場所の中で若者同士が仕事についての情報交換をする姿を目にすることも多い。潜在的に「働いてみたかった」若者は実際には多く、仲間とともに気軽に挑戦できる様々な有償ボランティアは若者たちにとってより身近なチャレンジとなった。

【就労体験（えんくる協力隊）参加状況（延べ）】

パントリーサポート	食堂サポート	配送サポート	こども喫茶	合計
133 名	40 名	36 名	46 人	255 名

※パントリーサポート：清掃、PC 入力、在庫チェックなど

食堂サポート：調理補助、盛りつけなど

配送サポート：積荷、配送補助など

【「働くを探そうプロジェクト」参加状況（延べ）】

名刺データ入力	瀬戸物の研磨作業	介護事業所事務補助業務	合計
35 名	13 名	25 名	75 名

【就労に向けた活動参加者数（重複）】

就労相談	面接練習	職場見学	職場実習	インターン	その他	合計
37 件	9 件	6 名	5 名	39 名	6 名	102 名

【2024 年度新規就労者】

正規雇用	契約社員	パート等	単発	その他	合計
0 件	2 件	19 件	13 件	0 件	34 件

【2024 年度離職件数】

正規雇用	契約社員	アルバイト	その他	合計
0 名	2 名	13 名	0 名	15 名

③まちづくり・地域連携

若者たち有志のボランティアサークル「ブリュッケよろずや」をはじめ、今年度も地域へ積極的につながっていく動きが見られた。中原区役所をはじめ、商店街、近隣事業所など若者たちと地域の人々とのつながりが広がっている。

○地域での年間活動

- ・7 月：「七夕の市」出店
- ・8 月：中原コア祭りボランティア（呼び込み、接客、備品搬入）
- ・8 月：武蔵新城商店街夏祭り「にぎどん」出店
- ・11 月：中原区健康福祉祭りの手伝い（誘導、備品搬入）
- ・12 月：「クリスマスの市」出店

○その他の年間活動

- ・神楽坂フリーマーケット「こだわりの材料展」参加

- ・シェア本棚「もちもち文庫」参加
- ・体験型農園「アイハグ」参加、手伝い

<「工房たまりば」>

本年度は、ハンカチやTシャツなどの藍染め製品の製作、販売を行った。コロナ禍以降、工房製品の販売の機会が減っていて、製作数、販売数は少なくなっているが、商品化に向けた新しい製品の開発についても話し合っている。製作時は、フリースペースえんの保護者同士の交流の場となっている。

(4) 保護者・教育関係者・学生・市民の学習と交流の機会及び情報の提供・発信活動

<広報・啓発活動>

①通信の発行

- ・内容：毎月のカレンダー、活動報告、お知らせ等を掲載した定期情報紙『楽えんだより かわら版』（毎月）と『たまりば通信』（年4回）や、一年間の活動の様子や会員の寄稿を掲載した冊子『楽えんだよりDX』（年1回）を制作、発行した。
- 夢パーク利用者向けには、共同運営事業体として、『夢パークつうしん』を隔月で発行。

②ホームページ・Facebook の開設と運営

- ・内容：たまりばHPをリニューアルし、活動の予定や報告などを公開し、たまりば会員だけではなく一般の人への広報の場とした。また、フェイスブック等SNSで、日常の様子を広く伝えた。

たまりばHP <https://www.tamariba.org/>

たまりばFB <https://www.facebook.com/tamaribaNPO/>

夢パークHP <https://www.yumepark.net/>

夢パークinstagram <https://www.instagram.com/kodomo.yumepark/>

えんめしぐらむ (instagram) <https://www.instagram.com/enmeshigram/>

えん保護者公式LINE

ブリュッケブログ <https://bruckeblog.livedoor.blog/>

ブリュッケ公式LINE

えんくるHP <https://www.encru-tamariba.org/>

えんくるFB <https://www.facebook.com/encru.tamariba/>

えんくるinstagram <https://www.instagram.com/encru.tamariba/>

えんくる公式LINE 等

③フリースペース活動説明会

- ・内容：不登校・ひきこもりに関する理解を促進し、「フリースペースえん」や「川崎市子ども夢パーク」の活動をより身近に感じ、知ってもらうために「フリースペースって、どんなところ？」を開催した。
- ・日時：毎偶数月
- ・対象者：不登校児童・生徒の保護者、ひきこもりの当事者、支援機関、学校関係者、研究者、学生等

④講演活動・スタッフ派遣および視察・見学等の受け入れ

- ・不登校・ひきこもりはもとより、子どもや若者たちの学校外での多様な生き方や学び方への理解を深めるために、また居場所のあり方、子どもの権利、遊び、子育てなどをテーマに、市民、教育関係者、行政職員、NPO 関係者、学生などを対象に幅広く講演活動を行なった。

- ・一年間を通して、各地から川崎市子ども夢パーク及びフリースペースえん等への視察・見学・実習、取材や夢パーク合同見学会（一般）等で、300 件を超えて受け入れた。
- ・川崎市内の児童相談所（3 カ所）で行なう研修の中で、ふれあい心の友の活動を中心にフリースペースたまりばの各事業について、事業紹介を行なった。
- ・遊び場づくりなどを行っている団体へスタッフ派遣をし、子どもの遊び環境の充実を図った。

⑤講演会の開催

○山本さとしコンサート

- ・内容：福島県出身のシンガーソングライターを招いて、毎月 11 日にえんで行っている「東日本大震災について考える日」にあわせてコンサートを実施し、演奏を楽しむとともに山本さんの福島への想いを子ども達と学んだ。
- ・講師：山本さとし（シンガーソングライター）
- ・日時：2024 年 7 月 11 日
- ・会場：フリースペースえん
- ・参加人数：28 名

○「多様な生き方に出会い、自分と他者の「いのち」について考える」

<子どもの権利の日事業>

- ・内容：「えん」に來ている子供たちに頸髄損傷（四肢麻痺）になってから一人暮らし、さらに海外に行くなどのきっかけになった人との出会いや言葉、自身の変化などについて語った。
- ・講師：三代達也氏（車椅子トラベラー）
- ・日時：2024 年 11 月 25 日
- ・会場：フリースペースえん
- ・参加人数：40 名

○たまりば×わくわくプロジェクト「おもしろい仕事人がやってくる！」

- ・内容：ハーゲンダッツアイスクリームの社員さんが来てくれて、「どんな仕事なのか」「どうやってつくるのか」「なんでおいしいの」などのおもしろ話を聞いた。
- ・講師：澤村優子氏
- ・日時：2025 年 2 月 14 日
- ・会場：フリースペースえん
- ・参加人数：60 名

○バウンダリーワークショップ

わたしとあなたを“たいせつ”にできる「境界」

- ・内容：混乱する身近な人間関係をバウンダリー（境界）の視点から見つめなおすワークショップを行なった。わたしとあなたの尊厳や人権を守り、両者が尊重しあって心地よく生きていくために必要な考え方について考えた。
- ・講師：長谷川俊雄氏
- ・日時：2024 年 10 月 20 日、11 月 10 日、12 月 8 日
- ・会場：子ども夢パーク内多目的ホール
- ・参加人数：延べ 106 名

<各種会議やネットワークへの参画・連携>

⑥国・東京都・神奈川県他の施策にかかわる協力・連携

- ・全国自治体シンポジウムにて分科会を担当
- ・こども家庭庁管理職及び職員の視察研修の受け入れを行った。
- ・地方議会総合研究所主催の全国の議員を対象としたオンラインセミナーの講師を務めた。
- ・神奈川県子ども若者施策審議会委員として参加（事務局：神奈川県・福祉子どもみらい局 子どもみらい部次世代育成課）
- ・神奈川県学校・フリースクール連携協議会企画委員を務めた。
- ・国立市のスクールソーシャルワーカーのスーパーバイザーを務めた。

⑦川崎市・高津区の施策にかかわる会議への参加

- ・川崎市ひきこもり支援ネットワーク会議委員長を務めた。
- ・川崎市不登校対策連絡会議委員
- ・かわさき子どもの権利の日事業部会（事務局：川崎市こども未来局）
- ・川崎市社会教育委員会議青少年教育施設専門部会（事務局：川崎市こども未来局）
- ・高津区地域教育会議（所管：川崎市教育委員会）
- ・高津区子ども・子育てネットワーク会議（事務局：高津区地域みまもり支援センター）委員長
- ・川崎市子ども会議（所管：川崎市教育委員会）との連携・協力
- ・高津区防災ネットワーク会議（事務局：高津区役所危機管理担当）
- ・高津区生涯学習推進会議（所管：高津区まちづくり推進部生涯学習支援課）
- ・川崎市立下作延小学校コミュニティ・スクール委員として、学校運営に協力

⑧子どものセーフティーネット構築における関係機関との協働・連携

- ・高津区要保護児童対策地域協議会（事務局：川崎市こども未来局）へ参加
- ・川崎市不登校対策連携連絡会議（事務局：川崎市総合教育センター）へ参加
- ・神奈川県学校・フリースクール等連携協議会（事務局：神奈川県教育委員会）へ参加（企画委員）
- ・川崎市発達障害者支援地域連絡調整会議（事務局：川崎市健康福祉局）へ参加
- ・高津区橘地区社会福祉協議会青少年部会委員として参加
- ・「高津区ボランティア・当事者連絡会」へ参加

⑨民間団体・市民との連携

今年度は、次の民間団体等と連携を行った。

- ・子どもの声を聴く無料電話相談「かわさきチャイルドライン」と連携協力
- ・「日本冒険遊び場づくり協会」と連携
- ・「フードバンクかながわ」「かわさき子ども食堂ネットワーク」と連携
- ・かわさきかえるプロジェクト（天ぷら油等の廃油を回収・再利用）と協力
- ・「かわさき子どもの権利フォーラム」と連携。代表を務める
- ・神奈川子ども未来ファンドとの連携により、いじめ撲滅を目指した「ピンクシャツデー」を開催した。また、常任理事を務めた
- ・かながわ生活困窮者支援ネットワークと連携
- ・水曜パトロールの会（ホームレス支援）と連携

- ・ちいくれん（地域で子育てを考えよう連絡会）と連携
- ・かわさき不登校・ひきこもり親の会ネットワークに参加
- ・子どもの権利条約ネットワークに参加。
- ・オレンジリボンたすきリレーに参加

＜研修・実習等の受け入れ＞

フリースペースえん及び川崎市子ども夢パークにおいて、大学生の社会教育実習や卒業研究、地方自治体や民間団体の職員の実習、ボランティア体験などを受け入れた。

また、神奈川県教育委員会から高校教員（体育科）を一年間の NPO 派遣研修としてフリースペースえん（夢パーク）での活動を中心に受け入れた。

＜かながわ生活困窮者自立支援ネットワークへの参画＞

かながわ生活困窮者自立支援ネットワーク（幹事団体及び川崎地域事務局）

「かながわ生活困窮者自立支援ネットワーク（任意団体：かなこんネット）」の活動に、幹事団体として 2024 年度も年間を通して活動を行った。ネットワーク会議と学習会、社会資源の広域的開拓（かながわ生活応援サイトの運営等）は、神奈川県生活援護課から、かながわ生活困窮者自立支援ネットワーク（以下「かなこんネット」）への委託事業であるとともに、協働協定書を締結しての協働事業として実施した。

今年度の年間テーマは「若者の困難と支援」であり、たまりばは中心的に運営を行った。ネットワーク会議の準備段階においても、県生活援護課と、かなこんネットの幹事団体がオンライン会議で打ち合わせを重ね、役割を分担して講師や報告者への依頼や調整を行い、広報においても民間団体に対しては、かなこんネットから、県内市町村に対しては県生活援護課から周知を行った。こうした役割分担と連携により、ネットワーク会議や学習会には民間団体、行政、関係機関が参加し官民の垣根を越えた情報共有や意見交換を行うことが可能となった。

＜詳細は別紙 4 参照＞

※運営体制：

【全体事務局】一般社団法人インクルージョンネットかながわ

【川崎地域事務局】認定 NPO 法人フリースペースたまりば

【県西・県央地域事務局】特定非営利活動法人子どもと生活文化協会

(5) 就労支援及び無料職業紹介事業

川崎若者就労・生活自立支援センター・ブリュッケでは、「就労支援を通じて、企業・地域とつながり～企業・地域と連携して、本人の自立・就労をサポートする」という視点を重視した就労支援及び職業紹介を行なった。

【別紙１】 えんくる各事業運営・開催実績

○たまりばフードパントリー

	食料配布数 (個)		食料配布量(kg)		利用者(人)		開所日数 (日)
	総計	日平均	総計	日平均	総計	日平均	
4月	1,064	67	376	23	134	8	16
5月	1,403	94	493	33	154	10	15
6月	1,347	79	613	36	211	12	17
7月	1,735	108	438	27	184	12	16
8月	1,358	80	427	25	136	8	17
9月	1,574	105	658	44	138	9	15
10月	1,522	95	310	19	136	9	16
11月	1,384	87	505	32	159	10	16
12月	1,944	122	416	26	139	9	16
1月	2,252	150	598	40	190	13	15
2月	1,471	98	333	22	132	9	15
3月	842	47	314	17	220	12	18
年間累計	17,896	1,131	5,480	345	1,933	121	192
月平均	1,627	103	498	31	176	11	17

○えんくる食堂

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間累計
実施回数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
こども利用者数	74	71	71	68	62	66	70	75	70	58	70	73	828
大人利用者数	60	60	61	45	48	59	58	59	65	51	60	64	690
合計利用者数	134	131	132	113	110	125	128	134	135	109	130	137	1,518
平均利用者数	44.7	43.7	44.0	37.7	36.7	41.7	42.7	44.7	45.0	36.3	43.3	45.7	506.0

○こども☆きっさ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施回数	13	12	12	12	12	11	12	12	12	11	11	13	143
合計利用者数	115	94	111	100	81	87	137	115	112	86	87	154	1279
平均利用者	9	8	9	8	7	8	11	10	9	8	8	12	8.9

○時短・節約料理教室

開催日	献立		こども参加者数	大人参加者数	合計
5月11日	ミルクレープ	ブルボンゼリー	8	6	14
7月5日	バターチキンカレー	ポテトサラダ	5	3	8
9月7日	アップルケーキ	プリン	5	3	8
11月9日	オムライス	きゅうりのたたき	3	3	6
2月8日	焼売でつくる肉まん	豆腐ドーナツ	4	3	7
3月31日	タコライス	チョッパースラダ他	3	3	6
参加者合計			28	21	49

○チャレンジ・ラボ

開催日	テーマ	講師	参加人数
8月14日	糸引き駒づくり	福嶺衆宝氏	12
9月25日	美味しい珈琲の淹れ方	田邊恵佑氏	6
10月18日	ジャック・オーランタン	中川裕子氏	6
1月31日	筆文字講座	小川宏美氏	5
3月21日	美味しい珈琲の淹れ方	田邊恵佑氏	6
合計			35

○地域ネットワーク会議

開催日	テーマ	講師	会場	参加人数
7月17日	子ども食堂に寄せられる困りごと		えんくる	4
10月23日	子どもの困りごと 子ども食堂の現状	近藤博子氏	えんくる	10
12月12日	若者が地域につながる時 ～“働く”を手段として～	石井秀和氏 小笠原美千代氏	ブリュッケ	25
2月7日	健康ケア・働く場・住まい	山中真奈氏 脇本靖子氏 福島沙紀氏	ミューザ川崎	18
				57

○調査事業「福祉的課題を抱える子どもへの食支援の可能性」

・調査検討委員会 開催

第1回 2024年8月12日（月）えんくるの実践報告と今年度調査の論点整理、インタビュー先選定

第2回 2025年2月14日（金）インタビュー調査の中間分析報告と考察を議論

【委員】

	氏名	所属・役職
1	新保 美香	明治学院大学教授
2	長谷川 俊雄	白梅学園大学 名誉教授 / 認定 NPO 法人フリースペースたまりば 理事
3	椎野 修平	日本 NPO センター 特別研究員 / 認定 NPO 法人フリースペースたまりば 理事

【神奈川県社会福祉協議会】

	氏名	所属・役職
1	小林 幸子	社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会 地域福祉部 地域課
2	渡辺 直樹	社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会 地域福祉部 地域課
3	中島 契恵子	社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会 地域福祉部 地域課 ケアラー専門支援員

【認定 NPO 法人フリースペースたまりば】

	氏名	所属・役職
1	鈴木 晶子	認定 NPO 法人フリースペースたまりば 理事・事務局長
2	菊地 真紀子	コミュニティスペースえんくる 事業統括
3	中川 馨	認定 NPO 法人フリースペースたまりば事務局
4	青木 成美	コミュニティスペースえんくる

・調査報告会 2025 年 3 月 11 日（火）18:30-20:00 オンラインにて開催

・調査レポート 2025 年 3 月 31 日（月）発行

※調査の詳細、結果等については、「こども食堂等によせられる困りごとを支える地域のあり方に関する調査レポート」参照。

【別紙2】＜フリースペースえん＞連続講座

講座名	実施回数	内容
俳優・片岡五郎さんの演劇講座	月1回 (下半期)	「西部警察」「水戸黄門」にも何度も出演している俳優の片岡五郎さんと演劇ワークショップ。殺陣の身のこなしや発声のしかたを学んでいる。
フォルクローレを演奏しよう	月1回	チャランゴ奏者のTOYO 草薙さんとともに、アンデス地方の民族楽器（チャランゴ・ケーナ・サンポーニャなど）をみんなで合わせて演奏をする。
長岡さんのケーナ講座	月1回	ケーナ奏者の長岡竜介さんに、初級者から上級者までそれぞれのニーズにあわせて、南米のたて笛・ケーナの吹き方を教わる。
ジャズダンス	月1回	ジャズダンススタジオ＜アミューズ＞を主宰している西崎小恵子さんとともに、自分達の好きな曲に合わせてジャズダンスを踊る。
ボイストレーニング	月1回	西崎小恵子さんとともに、大きな声で歌ったり、歌がうまくなるためのボイストレーニングを行ったりしている。
アート	月1回	有北いく子さんとともに、絵を描くだけでなく、木のつるや和紙を使った作品や、カード・カレンダーなどを作っている。
イタリアンパスタ講座	月1回	元イタリアンシェフの小林英紀さんといろんなパスタを作る。包丁の持ち方など基本から教えてもらい、料理の楽しさを知る。
歌講座	月1回	川崎を中心に全国で活躍する桜井純恵さんといろんなジャンルの歌をみんなで歌う。
青空美容室	月1回	恵比寿で美容師をしている尾松陽太さんに、髪の毛を切ってもらったり、アレンジをしてもらったりしながら、プロの技に出会う。

単発企画（実施・参加したもの）

実施時期	企 画
5月12・19日 6月9・16日	キッズゲルニカ
5月24日 6月7・21日 7月24日	動画づくり「OHK（えんエイチケー）」
6月22日	2023年度 活動報告会
7月11日	震災の日「山本さとしさんコンサート」
7月13日	たかつ区健康福祉まつり in 高津市民館
7月15日	夢パまつり
7月28日～8月2日	八丈島キャンプ（東京都八丈島）
8月21日	8小節プロジェクト わたしの「かわさきのうた」ワークショップ
9月14日	フリ・フリ・フェスタ in 神奈川県立青少年センター

10月3日	有北さんとアート番外編～箱根・彫刻の森美術館へ行こう～
10月9日	たまりば×わくわくプロジェクト おもしろい仕事人がやってくる！
10月13日	雑居まつり in 世田谷区羽根木公園
10月18日	斎藤洋さんと野染め
11月4日	こどもゆめ横丁（子ども商店街）
11月24日	まちかつフェス高津 in 高津市民館
11月25日	車いすトラベラー三代達也さんと話そう！遊ぼう！
12月5日	遠藤さんと Xmas リースづくり
12月19日	大そうじ
12月20日	えんクリスマス会
12月22日	夢パーク クリスマスイベント
1月10日	夢見ヶ崎動物公園に行こう！
1月27日～29日	スキー合宿@ホワイワールド尾瀬岩鞍（群馬県尾瀬岩鞍）
2月14日	たまりば×わくわくプロジェクトおもしろい仕事人がやってくる！ ハーゲンダッツ
2月26日	ピンクシャツデー
3月8日	たまりばフェスティバル
3月19日	大そうじ
3月21日	春だ！春だ！パーティー in 東高根森林公園

その他の企画

企画	実施回数
おはよう、スタディ！（学習支援）	週2回
きれいにし隊（近隣清掃）	週1回
バースデーパーティー	月1回
畑づくりプロジェクト 石井さん 渡辺さん	通年
着物の着付け、茶道 吉田裕子さん	随時
おやつづくり	随時
藍染め 松田菊代さん	随時
ものづくり（木工、手芸など） 福峯衆宝さん	随時
本整理し隊	随時
東日本大震災のことをみんなで考えよう	毎月11日（平日のみ）

【別紙3】＜ブリュッケ＞活動内容Ⅰ ～みんな de ワークと開所日の取組み

①コミュニケーション・ソーシャルスキルワーク

井戸端会議	やりたいことやプログラムの内容など若者たちが決める月例会議。
それぞれの「名作」を語る	アニメ、漫画、映画、ゲームなど、自分だけの名作を語る。
みんなの音楽	お薦めの音楽を YouTube の動画とともに紹介する。
ゲーム研究会	デジタル、アナログ様々なゲームをみんなで楽しむ時間。
Brucke シアター	井戸端会議で決めた映画を鑑賞。感想を語り合う。
サイコロトーク	トークテーマを決めて様々な話題を語り合う。
笑顔の時間	お笑い動画をはじめ、笑顔になれる情報を交換し合う。
写真共有会	若者がスマホで撮った写真を共有。出来事や気持ちを発表する。
三瓶さんの知らない世界	それぞれの好きな世界、得意分野などをプレゼンする。
何もしないデー	何もしない日が欲しいという声から実現。それぞれにやりたいことを見つけ、自分のペースで取り組む。
いまさら聞けないあんなことこんなこと	生活の中で分からず困っていることを匿名で相談・共有する会。
ブリュッケを語る会	若者とともに居場所づくりについて考え、自分たちにとっての居場所とは何かを深めることを目指した企画。
初めての哲学	東洋大学哲学科の教授をお招きし、哲学講座を実施。「幸せ」をテーマに語り合った。

②体験のワーク

誕生日会	誕生月の若者が「食べたいケーキ」を選び、みんなで作ってお祝い
スイーツ部	みなでお菓子作りを体験。
太極拳教室	太極拳歴 20 年の講師による初心者からの太極拳と気功の体験講座
よかよかお灸カフェ	東洋医学とツボを学びながら自分をケアする方法を教わる。
スポーツデー	体を動かしたいという希望から実現。運動が苦手な人向けに「ゆるスポーツ」も実施。
お写ん歩会	武蔵新城周辺を散歩しながら街並みなどの写真を撮り、地域を知る会。
ヘアアレンジ講座	現役美容師によるヘアセット、アレンジ法など体験型講座。
ほめのシャワー	仲間のよいところ、すごいところを互いにシェアするワーク。
美味しいものを食べたい日	有志でお金を出し合って、これこそ美味しい！というものを買って食べる

外出企画	4月：生田緑地・岡本太郎美術館 5月：スポーツ DAY@とどろきアリーナ 6月：あじさい写んぼ@武蔵新城 7月：夏カフェ巡り@武蔵新城 8月：橘ゴミ処理センター見学 10月：バーベキュー@武蔵新城 NAYA 1月：初詣@鶴が丘八幡宮
------	--

③イベント参加（地域連携プログラム）

七夕の市	武蔵新城で開催されるフリーマーケットに出店。商店街の飾り付けの手伝いにも参加した。
にぎどん	武蔵新城の商店街のお祭りに出店。売る商品や当日の動きなどすべて若者と考え、当日はたくさんの若者が準備・販売に参加した。
フリフリフェスタ	神奈川県立青少年センター主催のイベントに、会場設営や販売ブースの手伝いに参加した。
雑居祭り	世田谷区にて開催されるお祭りに、フリースペースえんの出店の手伝いとして参加した。
ブリュッケフェス	関係機関、関係者などを招待し、若者たちが考えたプログラムで交流し楽しんでもらうイベントを前年に続き今年も開催した。
クリスマス&忘年会	準備にも多くの若者が参加し、全員で行事を作りあげた。
たまりばフェスティバル	法人が毎年開催しているたまりばフェスティバルに、若者がバンド出演や創作展示・作品販売などで参加。今年は会場準備から参加する若者も現れた。

活動内容Ⅱ ～ひとり de ワークと予約制居場所の取組み

①ひとり de ワーク

PC「個」ワーク	個ワークスペースを活用した PC 自主練習の時間。インターネット体験、タイピング練習などが人気。
珈琲工房	自家焙煎珈琲を作成。生豆の選別から焙煎まで、自分たちで学びながら実践。カフェ巡りのワークと連動させ、社会活動にもつなげている。
アートの日	イラストや創作など個々に作業をするワーク。グループワークの手作りワークショップやブリュッケフェス、ブリュッケよろずやなどの各種イベント・地域活動と連動させて活動した。
ふらっとタイム	やることを決めずに、なんとなく居場所にいれる時間。

②予約制居場所

折り染めワークショップ	和紙と染料による染め物、折り染めで創作活動をしている作家によるワークショップを実施した。
パソコン教室	タイピング練習や Microsoft Office、ホームページ制作など、それぞれのニーズに合わせた個別教室を開催。
ミニシアター	自宅アウトリーチで好きなアニメ動画などの鑑賞を続けてきた若者が大きなスクリーンで好きなアニメの映画を見るために予約制居場所でのミニシアターを開催。継続して実施している。
ミニスイーツ部	男性が苦手などの理由で開所日の来所が難しい女性などが参加。本人が選んだレシピをもとに作成。レシピ考案の回と実際に作成する回を交互に開催している場合もある
学ぶぞ（学習支援）	通信制高校の課題や高卒認定の対策をしたい若者、学び直しをしたい若者のための自習室のような環境をつくるために月 1 回開催。
女子会	女性のための空間で、安心して話をし交流して過ごせる時間として月 1 回実施。
その他（アウトリーチ）	個別ゲーム研究会（オンラインゲーム、ボードゲーム）、個別名作を語る（ポケモン、音楽、アイドル）、読書会、楽器練習、学習支援、プログラミング学習、個別外出企画（初詣、お花見、映画館、買い物など）など
出張居場所（どこでもブリュッケ）	母子生活支援施設ヒルズ末長と連携し、月 1 回出張・実施。

【別紙４】 かながわ生活困窮者自立支援ネットワーク

日時	会場	参加者	内容
1. 学習会 「ヤングケアラーへの様々な支援～「親子まるっと伴走支援」の取り組み～」			
6月21日(金) 14:30～16:30	神奈川公会堂 1号会議室	73名	ヤングケアラーへの様々な支援を知る機会として、一般社団法人 Omoshiro が取り組む「親子まるっと伴走支援」を学んだ。サポートを必要とする家庭とその家庭に育つ子どもに対して、生活・就労・学習・居住など様々な方向から取り組むヤングケアラー支援について、支援現場からのお話を伺い、ヤングケアラー問題の背景にある生活困窮、自立支援や孤立・孤独問題などを改めて学ぶ機会とし、更なる理解を参加者と深めていく場として、グループワークを合わせて行った。 ◆報告者：武田茉莉氏（一般社団法人 Omoshiro・相談支援専門員・社会福祉士・精神保健福祉士・認定心理士）
2. 第1回ネットワーク会議 「若者の社会参加と就労支援を考える」			
9月4日(水) 14:30～16:30	川崎市役所本 庁舎復元棟 会議室 101・ 102 会議室	89名	誇りを持って働くことができ、「生きていていいんだ」そんな気持ちで暮らしていける、就労だけではない参加や自立支援のあり方を、3名の事例報告と、参加者とのディスカッションを通じて考えていった。 ◆報告者： 武石和成氏（一般社団法人 SHOEHORN） 藤井智氏（NPO 法人文化学習協同ネットワーク） 三瓶三絵（ブリュッケ） ◆コーディネーター：鈴木晶子（たまりば）
3. 第2回ネットワーク会議 「若者の孤独・孤立に地域ができることを考える」			
2月27日(木) 14:00～16:30	サン・エール さがみはら 相模原市勤労 者総合福祉セ ンター 第1研修室	35名	福祉制度の枠組みからは見えにくくなりがちな若者の孤独・孤立に対して、地域ができることをテーマに、開催地相模原市内から、行政、民間 NPO、民間企業、それぞれの立場で事例報告をしてもらった。その後、一つの地域での取り組みを多様な視点で描き出すことを通じて、参加者がそれぞれの地域で、自らの立場からできることを考えていくグループワークを実施した。 ◇事例報告： 相模原市健康福祉協生活福祉部中央生活支援課 NPO 法人文化学習協同ネットワーク 雨宮 健一郎氏 橋本商店街協同組合 事務局長 上田 聡氏 ◇コーディネーター： NPO 法人文化学習協同ネットワーク 藤井 智氏

【別紙 5】川崎市子ども夢パークの研修・視察・実習等の受け入れ実績

省庁、自治体、議員、NPO、企業、地縁組織などの研修・視察、大学生などの実習受け入れを実施した。以下は 2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までの実績

月	件数
4 月	18
5 月	33
6 月	28
7 月	34
8 月	36
9 月	34
10 月	27
11 月	40
12 月	23
1 月	37
2 月	27
3 月	16
合計	353

